

## 平成28年度第1回市民評価委員会専門部会

(快適交流・経済活力)

日時：平成28年9月14日（水）14：00から15：15まで

会場：市庁舎3階 32会議室

事業名：1 青年就農給付金事業  
2 道路網交通体系調査  
3 駅南地区整備計画策定費  
4 ゆらぎの森整備事業  
5 デマンドタクシー運行事業

参加者：●市民評価委員

佐々木部会長、萩尾委員、奥野委員、山崎委員、大野委員、  
福本委員

●担当課

農林水産課、都市計画課、運輸観光課

●事務局

亀井課長、小島副課長、篠崎主事、佐藤係長（まちづくり担当）

### 青年就農給付金事業（農林水産課）

14：00から14：15まで

農林水産課：高岸次長、田坂主事

#### 1 概要説明

担当課より概要説明

#### 2 質疑応答

Q：青年就農者はこんなに少ないのか。もっとPRする方法はないのか。

A：PRは最大限行っているが、農業で生計を立てるのは難しく、対象者が限られている。新規就農の大半は、親が農業をやっていて、仕事を辞めて

跡を継ごうというケースで、何の経験もないサラリーマンが仕事を辞めて、新居浜市で農業をやろうというケースはない。

Q：平成28年度の費用が増えているのは。

A：一人当たり半期で75万円を支払っているが、昨年度夫婦の相談者が3組あったため、全員が就農した場合を想定して予算措置してある。

Q：農業では生計が立てられないため、離農する農家も増えている。農協でも補助金を出すなど努力はしている。

Q：漁業でも生計を立てるのが難しい。漁連は規模が小さいため、農協と協力して人を集めることができればよい。

Q：農業は人が生きていくために必要な基幹産業のため何とかしなければならない。

Q：丹原では果樹園があるが、新居浜でも若い人が参入できるようなものがあればよい。

Q：農協でもハウスで甘平が出来ないか、といったことも考えている。また、伊予美人についても、高齢者では大変な種植えと収穫を農協が行い、途中の管理を農家が行うといった取組も検討している。

Q：成果指標の人数は。

A：延べ人数になる。

Q：3～5人の相談があつて、1人が就農ということか。

A：親も含めて全く農業経験もなく興味があるだけで相談に来るケースがある。まずは自然農園などで農業と触れ合うきっかけを提案させてもらった。

Q：テレビなどで、定年後に農業を始めるケースを見るが、誘致のための宣伝はしているのか。

A：市政だよりや農協の機関誌で宣伝はしている。

Q：そういった人たちに農業を教える学校のようなものも必要。

Q：農家の高齢化により、農地が維持管理できなくなっている。

Q：市も関係団体も努力しているのは分かるが、需要がないというのがネックになっている。

Q：何か変化球を投げてやらなければこのまま変わらない。非常に難しいが、積極的に出ていかなければならない。

Q：漁業も林業も同じ問題を抱えているが出ていく場がない。そういった場を作っていく必要がある。

### 3 評価結果

手段を改善する。

農業をこれ以上衰退させるわけにはいかない。同じ問題を抱えている漁業や林業とも連携するなど、手段を改善しながら農業の担い手確保に取り組んでいただきたい。

### 道路網交通体系調査（都市計画課）

14：15から14：30まで

都市計画課：庄司課長、町田係長

#### 1 概要説明

担当課より概要説明

#### 2 質疑応答

Q：5年ごとの調査か。

A：そうである。前は平成22年に実施した。

Q：この調査を基に具体的な取組が決まってくるのか。

A：新規路線の場合等、国や県に対して要望していくための交通量予測などの資料とする。

Q：10年、20年で見た場合、交通量予測と実績とはあっているのか。

A：人口減少もあって、交通量が著しく伸びている路線はないが、上部東西線のように元々なかったところに道路ができた場合などには、交通量に大きく影響する。

Q：5年ごとに調査するのが一般的なのか。

A：国が5年ごとに調査しており、同時期に調査することでデータが生きてくる。国・県・市の調査データを基に20年後の交通量を解析し、路線の計画

を立てる。

Q：どのような路線・個所を調査しているのか。

A：国道は国が、県道は県が調査し、重複しない箇所及び市道の調査を市が行っている。（調査個所を図面で提示）

Q：この調査を基に改良箇所が決まるのか。

A：この調査を解析して、改良箇所の基礎データとする。

Q：点の調査だけで、線の交通量が分かるのか。

A：現状把握のための基礎調査であって、これを解析すれば交通量を予測することができる。

Q：調査結果によって、都市計画道路がなくなることはあるのか。

A：改良率は55%で、いつまでも改良されない都市計画道路があるのも事実、人口減少社会を迎える中で、出来る見込みのない都市計画道路の見直しについては、今後検討して行かなければならないと考えている。

Q：右折レーンで時差式の信号があるが、どこが管理しているのか。

A：警察になるが、道路課が窓口になって、警察に要望することができる。

### 3 評価結果

現状のまま継続する。

道路改良を行うための重要な基礎調査であり、現状のまま継続して取り組んでいただきたい。

### 駅南地区整備計画策定費（都市計画課）

14：30から14：45まで

都市計画課：庄司課長、町田係長

### 1 概要説明

担当課より概要説明

## 2 質疑応答

Q：計画の策定のみの費用か。

A：決算額のうち、約500万円が計画の策定費で、残りが人の広場などの駅周辺整備事業の評価に係る費用となっている。

Q：会議の開催費用なのか。コンサル等に委託しているのか。

A：会議に必要な資料の作成等開催に係る費用になる。資料の作成は外部に委託している。

Q：整備計画案はできたのか。

A：今作っている最中である。

Q：平成28年度に予算が計上されていないのはなぜか。

A：平成27年度予算の一部を繰り越して実施している。

Q：住民説明など、計画が策定されてからが大変になる。

A：策定の順番としては、基本構想、基本計画、実施計画という流れとなる。現在行っているのは、その中で、基本構想の前段階と考えてもらいたい。皆の意見を聞きながら、今後駅南をどうしていくか考えているところである。

Q：ベース作りは大切。そのベースが基に計画が作られる。しっかりとした計画を作るためにも、しっかりとしたコンサルを選んでもらいたい。

Q：最終目標年度は決まっているのか。

A：決まっていないが、今年度中に方向性は出したい。3案を作成しているが、どれか一つを選んですぐに着手するのか、時期も含めてもう少し見直すのかの方針は決定したい。

Q：事業を実施することが決定すればこの事業はどうなるのか。

A：この事業は計画の策定費のため、実施することになれば、別事業として予算が付くことになる。

## 3 評価結果

現状のまま継続する。

住民の意見を十分反映した計画を策定し、駅南地区の整備に重点的に取り組んでいただきたいが、この事業は計画の策定までの費用であることから、現状のまま継続するとする。

## ゆらぎの森整備事業（運輸観光課）

14：45から15：00まで

運輸観光課：高橋課長、阿部副課長、越智係長

### 1 概要説明

担当課より概要説明

### 2 質疑応答

Q：利用者は年間2万人くらいか。

A：ゆらぎの森の利用者は、ここ数年、2万人前後で推移している。

Q：マイントピアと連携して利用者を増やすことは出来ないか。

A：どちらの施設も指定管理者制度を導入し、管理運営を行っているが、指定管理者同士も連携したいとの意識はある。別子・翠波はな街道で繋がっており、協力してPRし、誘客している。

Q：マイントピア別子の入場者数は。

A：温浴施設や子ども用遊戯施設の新施設ができてから好調である。特に子ども用遊戯施設は、年間の入場予測数をすでに上回っており、これらのお客様を別子山地域まで誘導したいとの思いがあるが、二次交通が別子山地域バスしかないため、その点が課題となっている。

Q：ゆらぎの森にもマイントピアのような遊戯室を作る等のアイデアが欲しい。

A：環境にも恵まれており、別子・翠波はな街道が愛媛まるごと自転車道に指定されていることから、近年、サイクリストも増えており、観光施設に立ち寄ってもらっている。また、昨年度は、ふるさと名物旅行券事業を実施し、オーベルジュゆらぎの宿泊とセットで売り出して一定の成果を上げており、まだまだ魅力ある観光施設として育っていくものと考えている。

Q：利用者は夏が多いのか。

A：春から夏にかけてが一番多い。冬季は、積雪などの影響もあって少ないが、閑散期には、オーベルジュゆらぎのシェフが市街地へ出向き、料理教室を開いたり、従業員がPR活動を行っている。

Q：経営は黒字か。

A：年度によっては、若干マイナスがある。

Q：サイクリストが増えているが、苦しくなったらバスに乗れるといったアイデアも出していけば、もっと人は増えると思う。

Q：売店が小さい。近くに山草園もあるが、閉まっていることが多い。

A：ゆらぎの森には椎茸園もあり、椎茸狩りのイベントを行ったり、椎茸の販売をしている。指定管理者も収益を上げるために、様々な営業努力はしている。

Q：テレビなどメディアの利用も必要。

A：ゆらぎの森の指定管理者は、マリンパーク新居浜と同じなので、海と山とがつながるような営業やメディアを通じたPR活動も行っている。

Q：漁連では生産者会議を開催し、地元の食材を使った観光PRにも取り組んでいる。

A：オーベルジュゆらぎと同様に、マイントピア別子は、レストランも直営になって、別子山で地域おこし協力隊が育てている媛っこ地鶏や野菜等、できるだけ地元の食材を使う努力をしている。

Q：新居浜市で取れたものは、新居浜市でしか食べられないというのが売りになる。次回の会議には「さいさいきて屋」も参加してもらおうが、生産者同士横のつながりも大事。

A：地元の生産者や事業者がお互いに協力して、生産量や売り上げが拡大すれば地域経済の活性化に繋がると考えている。

Q：相互需要だと思う。さいさいきて屋も観光地の一つであり、そこでマイントピア別子の情報を発信し、マイントピア別子でもさいさいきて屋の情報を発信すればよい。

A：マイントピア別子は40万人以上の来場者があることから、情報発信について、お互い協力できるところは協力していきたい。

### 3 評価結果

重点化する。

整備事業ではあるが、施策の目的である観光・物産の振興に繋がるよう、観光宣伝や地産池消といった他事業とも連携し、ゆらぎの森の利用客が増えるよう手段も考えながら取り組んでいただきたい。

#### デマンドタクシー運行事業（運輸観光課）

15:00から15:15まで

運輸観光課：高橋課長、安永副課長、二宮係長

#### 1 概要説明

担当課より概要説明

#### 2 質疑応答

Q：高齢者にとってきめ細やかな施策だと思うが、これ以上拡大していく考えは。

A：人口は減少しているが、高齢者は増えていることもあり、登録者数は年々増加している。運行エリアの拡大は、現在、予定していないが、デマンドタクシーは、利用者に喜ばれている。

Q：高齢者の交通事故の減少にもつながる。

A：免許を返納された方は、割引料金で利用できることにしている。

Q：利用者にはチケットか何か発行しているのか。

A：利用者に登録者証を渡しており、運行事業者には、登録者の名簿を渡している。

Q：決まったルートを走っているのか。

A：乗り合いタクシーのため、4人の利用者がいれば、それぞれの場所で順番に乗車してもらい、それぞれの目的地で降車している。そのルートは、日々変わり、デマンドタクシーの運転手が、効率的なルートになるよう考えてい



る。

Q：シャトルバスのようにルートが決まっているわけではなく、依頼があればということか。

A：ルートは固定していない。30分前までに予約をいただいている。利用者が一人しかいない時は、直で目的地に行くことが可能となるが、現在、平均2.4人の利用がある。

Q：市民へのPRはどのように行っているのか。

A：市政だよりへの掲載や出前講座の実施などで周知に努めている。

Q：川西地区は入っていないのか。

A：デマンドタクシーの運行は、バス交通空白地域の解消が目的であり、川西地区はバス交通が充実しているため、エリア対象としていない。

### 3 評価結果

現状のまま継続する。

バス交通空白地域の高齢者等交通弱者にとっては、きめ細やかなサービスであり、高齢者の免許返納による事故の抑制にもつながることから、現状のまま継続して取り組んでいただきたい。